

新基地建設反対名護共同センターニュース

テルヤ候補の勝利で市民本位の市政実現を！

うるま市長選（18日告示、25日投票）にオール沖縄勢力から立候補するテルヤ寛之氏（元沖縄国際大学教授）の街頭演説が4日、同市石川で行われ、玉城デニー知事が応援に駆けつけました。

テルヤ予定候補は、「市長給与を50%カットし、200%の仕事をしませよ」と切り出し、市長専用高級公用車の廃止や学校給食費、高校までの医療費無料化、給付型奨学金の実現など、子どもをはじめ市民の命とくらしを守る市政を実現することを約束しました。屋良朝博衆院議員（沖縄3区選出）も応援演説をしました。街頭では、約150人の市民が耳を傾けました。



デニー知事は、コロナ感染症対策や観光客が落ち込んだ県経済のために地産地消をと訴え、「コロナ禍の今こそ市民本位のうるま市政実現へ、行政のエキスパートであるテルヤ寛之氏を市長に！」と訴えました。市議補欠選のテルヤ千江美予定候補も挨拶しました。（写真=前列左からテルヤ市長候補、デニー知事、テルヤ千江美市議候補）



うるま市長選 デニー知事迎え街頭演説

抗議船3隻とカヌー14艇で海上から抗議行動

ヘリ基地反対協の海上チームは3日、抗議船3隻、カヌー14艇を繰り出し海上からの抗議活動を展開しました。大浦湾には輸送船と台船が各数隻停泊し、土砂を積み替えていました。土曜日にも関わらずK9とK8護岸では、辺野古側の埋め立て地のかさ上げ用に違法な赤土をダンプカーに積み替え、運び込んでいました。



写真上は台船からダンプカーに赤土を積み替え中のK9護岸。辺野古側の沿岸では、産卵場を奪われたウミガメがさまよっている姿や県蝶であるオオゴマダラの飛ぶ姿が確認されました。



日本学術会議と現代史パート②



と訴えました。上げることが大事です。沖縄の現場から声を上げましょう。

テント村で屋富祖氏が講演
ヘリ基地反対協は1日、辺野古ゲート前のテント村で日本科学者会議会員の屋富祖昌子氏（元琉球大学准教授）による「日本学術会議と現代史パート②」の講演会を開催、70人が聴講しました。

沖繩から声を上げる事が大事
屋富祖氏は「菅首相が年間10億円の予算を投入しているからと学術会議の会費を首にする権限など憲法上も法的にもありません。憲法は逆に権力を縛るものです。そのためには国民が声を上げる事が大事です。沖縄の現場から声を上げましょう」と訴えました。

衆院候補や県議も座り込に参加

4月1日朝のゲート前には30人余りが結集。2月県議会が前日で終了し、日本共産党の渡久地修県議団長、「沖縄・平和」会派の仲村未央代表など県議5人（写真）と衆院沖縄2区予定候補の新垣邦男氏が連帯の挨拶をしました。



渡久地氏は「戦後76年、沖縄県民はどんな困難な中でも団結して今日の沖縄をつくってきた。総選挙で全国民と一緒に野党連合政権を実現し、辺野古新基地を中止させましょう」と訴えました。